

風光



今年、大きく拡大が進んだ東海地本。その象徴ともいえるのが「さくらんぼ作業所」の仲間への加入でした。

さくらんぼの組合員に「福保労に加入した経緯とこれから期待すること」を聞いてみました。

中川区、さくらんぼの会勤務の濱田康作です。さくらんぼには労働組合がありますが活発に活動を行っているかといえ、決してそうではなく単組での限界を感じています。自分たちだけでは無い、思いを共有できる人がたくさんいることが福保労の強みだと思っています。福保労を「つながる」場として様々な分野と共同していかなければならないと思っています。(濱田康作)

4/8に行われた「語り合おう、仕事のよさこび悩み」に参加をして、そこで行ったグループ交流で福祉でも障害分野しか知らなかった自分にとって、保育の現状等が聞けた事などで新しい刺激を感じたのが福保労に加入しようと思えました。また、福保労での組合を通して福祉分野全体をみんなかえていければと思います。(服部沙知)

仲間がふえるってうれしいね! 東海地本 ぐんぐん 躍進しています!



全国交流集会在愛知

主催 後援 障害者福祉の場づくりに貢献する全国交流集會実行委員会 会：現地実業労働協議会
 きよ さん、障害者の生活と権利を守る

以前、京都での福祉保育労働組合さんの全国大会に参加させていただいたことがあります。当時は、さくらんぼの会の労働組合はまだまだでできたばかり。他の福祉関係の労働組合の方のどのような取組をしているのかを知らないままに参加したことを覚えています。

2日目に今回の全国大会のように各施設の労働組合の交流を行った際、さくらんぼと同じ悩みを抱えていることが発表された時、他の労働組合の話聞くことがどれだけ私たちの労働組合にとって良いのかを感じたことを覚えています。現在、個人加入ですが、これ

から、横のラインを作り、他の施設の労働状況なども学びながら、私たち自身の職場の改善につながるような活動ができればと思います。(治部真三子)

6月1日付けで福保労に加入させていただきました。転職を機に今の職場で働き始めましたが、やりがいのある仕事を長く続けていきたいと願っています。そして、今後も私だけでなく、今一緒に働いている多くの職員さんと共に長く働き続ける方法を福保労で学んで行きたいと思えます。宜しくお願いいたします。(井上康子)

福祉保育労は職場の仲間だけでは解決しきれない問題を抱えた時、地本や全国の仲間と悩みを交流し、知恵を絞り、励まし合いながら立ち向かっていきます。各職場だけでは解決しきれない問題を抱えた時は、労働組合の立場で、国とも交渉していきます。それは福祉保育労が「産別」の「全国組織」の労働組合だからです。さらに仲間をふやし、国、自治体が無視できない大きな組合になりましょう。

風の音

古い話で申し訳ないですが、5月のミーデーのこと。私は、いつもは、ミーデーは、自分の団体のところに行き、自分の団体と一緒に行動に参加している。でも、今回は、行列の通るところを、道路側に立って、危なくないように行列を見守る係を経験した。こうすると、行列が最初から最後まで見ることができると、いつもは、気がつかないことがいろいろ見えたのである。

まず、行列の最初のほうを通り過ぎてゆく。病院、学校関係の団体。息子の高校の旗も出て来て、息子がお世話になっている先生方もこの中にいるに違いないと思った。しばらくすると、夫の勤務先の近くの団体。そのあたりの地域の雰囲気がいっしょに出された。いつもお世話になっている病院。看護婦さん。みんな忙しい中、今日のこのミーデーを思いを持って参加しているのだろうかと思ってしまう。

そんなことを思っていると、突然、「〇〇さん」と私の名前を呼ぶ声が。あわてて、通り過ぎた行列を目で追うと、なんと、息子の友達のお母さんで、いつも仲良くしてもらっている方だった。先日、彼女と話していたけれど、まさか、今日、この場で一緒に時間を過ごしているなんて私は知らなかった。なんだ、彼女が存在が、ますます身近に思えた。行列をこちらからみているつもりでも、また、向こうからも見られている私。 「お疲れ様! 道路で大変だね。車にひかれなないようにね!」 「今日は、日焼けしそうだねえ。日焼け止めしっかり塗ってきたかい?」 こういう言葉がけがとてもとてもうれしかった。

私は、いつも、そんな気遣いもなく、同僚と話しながら歩いているけど、そんな自分を反省。今度、周りの人にもっと気を配ろう! と思う。

ミーデーをいつもの角度ではなく、もっと違う角度から、広く見ることができたこの経験。ミーデー参加者が、とても身近に感じられたよい経験だった。

めかぶ

なり&なえのNPT体験記 in NY

NPTに向けて、たくさんの人たちにカンパや支援をしていただき、本当に感謝でいっぱいです。全国の福保労から12人の仲間と一緒に、署名やパレードに参加して来ました。あまりの日本人の多さに、『ここは日本か！？』と思うようなことのいっぱいの6日間でした。本当に楽しく活動もでき、たくさんを経験できました。本当にありがとうございました。

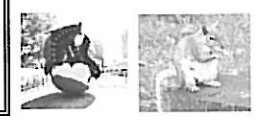
7月18日に組合学校でも報告しますので、是非聞きにきてください〜☆



NPT再検討会議の平和活動に参加して一番印象に残ったのは、N.Y.市街での署名行動です。請願内容を読んでも「戦争反対！」と快くサインしてくれる人、「Nice!」と言って私たちの活動を受け入れ、感心してくれる人。平和の願いが書かれた折り鶴をプレゼントすると「pretty!」と大喜びしてくれる人。中には「核兵器に賛成だから!」と言う人もいましたが、「YES」「NO」ハッキリとストレートに表現してくれる人たちの国での署名行動はやり甲斐を感じました。中でも一番印象深かったのは、「8年前、韓国で兵士してたよ」と教えてくれた女性です。兵士という過去を持ちながらも「戦争反対!」という思いに賛同してくれたことを嬉しく思いました。平和を願う人はこんなにたくさんいるんだ…そんなことを実感していく中で、平和への思いを絶え間なく訴え続けることの意義を深く実感しました。貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。



成田智美
みよし分会



西岡菜絵
新瑞福祉分会

NPTの会議が始まる前のシンポジウムで、核兵器保持の国、アメリカ・イギリスの核兵器反対の人の話の中で、『核兵器(ミサイル)では持続的に平和を守ることができない』と言われました。そして、最後のまとめで『原爆を落とされたのは日本です。その日本が黙ってしまえば、世界も黙ってしまいます。声を上げ続けてください』とエジプトの大統領の言葉を引用して言われました。その言葉は衝撃的で、今まで原爆の悲惨さを知っていて当たり前、平和のために核兵器はいらない!と思っても、それは当たり前のことではない。核兵器の悲惨さは訴え続けて行くことが大切なことだと改めて感じました。『自分の生きているうちに、核兵器をなくしたい』と多くの人が言っていて、本当にそれを実現できるように私もがんばっていきましょうと思いました!! NYで日本のことをたくさん学んできました。本当に毎日が初めてのことで、勉強になったし楽しかったです☆ありがとうございました。



☆NYでの行動☆

4/30(金) AM 成田へ PM いざNYへ出発!! (飛行時間約13時間)

現地時間(inNY)時差13時間(サマータイムのため)

4/30(金) 夕方 NY着

5/1(土) AM 市内観光 PM 署名活動 夜は福保労で夕食交流会

2(日) AM 署名活動 PM タイムズ前で集会⇒国連までパレード

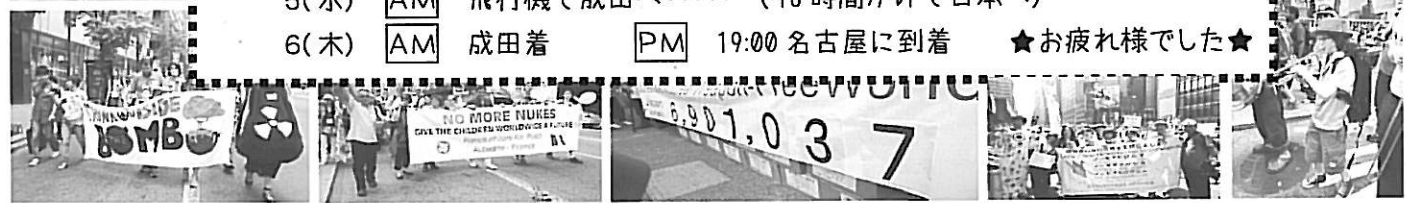
3(月) AM SEIU(アメリカ最大の労働組合)との交流会

PM うたごえ交流会 公開シンポジウム

4(火) AM 国連見学 PM 各集会に参加

5(水) AM 飛行機で成田へ…… (13時間かけて日本へ)

6(木) AM 成田着 PM 19:00名古屋に到着 ☆お疲れ様でした☆



「障害福祉職場に働く
職員の全国集会在愛知」

現地実行委員長 佐藤悦弘
(めいほく作業所分会)



さる6月19日(土)〜20日(日)、労働会館にて「障害福祉職場に働く職員の全国集会在愛知」が開催されました。折りしも、違憲訴訟の「基本合意」「推進会議」を無視して、突如出された「自立支援法改正案」

「シリーズ・名物分会員」
いいなか分会 50代4人組

鈴木恵子、山本美江子、高木千嘉子、山本栄子、勤続28年、33年ずつと組合員。私達は私教連保育園部、私保労の時代も知っています。4人も分会長経験者、2人は地本執行委員の経験者なのです。組合の一番の魅力は職種がどうであろうと、正職であろうと、臨職であろうとみんな平等であること、なんととっても本音で語り合えながら、みんなが働き続けられるように何とか考え合っていくことでしょうか。長年の間にいろんなことあったな。みんな今お金がかかることあるけど、子育てはひと段落。今は定年まで働こうともうひとふんばり。それぞれ気分転換の手段を見つけ働いております。

が廃案に追い込まれ、参議院選挙に向かう、文字通り、激動の情勢の中で開催となりました。その情勢を反映して、1日目は、労働会館東館2階ホールには入りきれないほどの人たちが、労働者、経営者問わず、様々な立場の障害職場で働く人々170名の参加がありました。日本理化学工業の大山泰弘さんによる記念講演「重度の知的障がい者に働く幸せを」では戦後間もない頃からニューヨーク工場で知的障害者を雇用してきた経緯や思い、悩みが語られました。その末にいき



大山先生

改正法案の再提出をゆるさず、障害当事者を含めた「推進会議」による新法作りに向けた。その怒りなどが語られました。

ついた、人の究極の幸せは「愛されること、ほめられること、人の役に立つこと、必要とされること」だという考え。そのことを知的障害者から教えてもらったと語る大山先生の姿勢からは、あたたかく謙虚で、人情味あるお人柄があらわれておりました。特別講義では佐藤久夫先生より、この間の推進会議の議論や、改正法案について推進会議への説明がまったくなかったことへの

鈴木は土いじり、お家の庭やプランターで花や野菜をつくっています。山本美江子は、お華、お茶、着付けと純和風のことをやると心がすっきり。高木は映画が大好き、月に4本はみてるかな。現実からはなれスクリーンにくぎづけになる世界がたまらない。山本栄子は歌うことが大好き。地域の合唱団に入っ



(文、高木千嘉子)

て運動を進めなければ...と確信を深めました。



夜の交流会はみんなで歌って盛り上がりました

夜の交流会では、さくらんぼ作業所によるオードブルや名古屋めし、全国からのお土産や職場交流、ご当地クイズや企画、「障害者自立支援法違憲訴訟」の原告の坂野和彦さんによるアピール、そして障害協バンド(実行委員長自らハメはずし過ぎました...)と楽しい夜を過ごすことも出来ました。2次会にも大勢参加していただき、いろんな交流も深まりました。2日目の分科会でも、たくさんの方が参加されました。特に賃金などの労働条件を交流する分科会では、さらに2グループに分けるほどの参加者でした。私が参加したフレッシュセミナーでも働いて間もない職員の思い、



数年働いた職員の現場での悩みなども聞くことができました。利用者はもちろんですが、働く者の生活や権利も大切にされなければ、いい仕事ができない、働き続けられないこともみんな確認できたと思っています。全体でのべ2400人を越える参加者でした。200人超えたのは久しぶりだそうです。準備をしてきた現地実行委員、執行委員のみなさん、福保労全国障害部会、あいされんの協力などあったの、このたびの成功だったと思います。思えばこの数ヶ月みんなで忙しい中がんばって集まって、知恵を出し合って、企画・準備してきました。本当に協力いただいたみなさん、ありがとうございました。そしてお疲れ様でした。そして今回のこの交流が、自立支援法を廃止し、福祉労働者の生活や権利を守る全国の運動の原動力になれるよう、これからもがんばりましょう。

第17回高齢者福祉の 職場に働く仲間の

全国交流集会

5・15・16(土・日) 宮城県仙台市で行われた、「第17回高齢者福祉の職場に働く仲間の全国交流集会」に参加しました。

オープニングでは、山形の施設の方々による「歓迎の舞」が披露されました。自分達で手作りされた衣装で踊られ、和気あいあいとした、なごやかな雰囲気が始まりました。

09年4月には3度目の報酬改定により初めての3%プラス改定になったものの、過去2回の改定では計4.7%のマイナス改定だったため、現場では「焼け石に水」状態であること。5年に1度の制度改定では「ホテルコスト」が導入され利用者の負担が増えた。新たに作られた地域包括支援センターは本来業務ができず、ケアプラン作成センターになっていくこと。

また、現場の介護労働者の置かれている状況はと言えば、訪問介護のヘルパーの雇用形態では、相変わらず登録型が主流で、その日によって、訪問回数、時間、業務内容等が異なり派遣先への交通費や記録時間の賃金保障がない事業所がほとんどで、まさに派遣労働そのものであり、

中でもスポット派遣にあたるもので安定した収入も得られず、ダブルワークも増えている。

施設での最低配置基準の問題・夜間の職員体制の問題など問題は山積みで、現在の加算に頼る介護保険制度を一度廃止し、公費方式の公的責任による運営にしていく必要がある。

2年後の2012年には4回目の介護報酬改定と制度そのものの改定が予想される。この集會では、介護保険制度はいつたん廃止をさせ措置制度を目指すのか、または現行の制度を抜本的に見直し、公的福祉を再生するべきなのか、介護従事者として共に考えましょう。と基調報告が行われました。

その後で、芝田先生の講演がありました。医療保険が現物給付に対して、介護保険は現金給付であり介護が商品化され、営



「いい介護の日」に合わせて行った厚労省前の座り込み(参考資料)

利目的の株式会社などの参入が増え、社会福祉法人の位置づけも曖昧になってきている。自治体も単なる保険者となり責任も不明確になっている。

また、要介護認定は意味が無く、介護労働者が臨機応変に判断できる「専門性」を認めることにより要介護認定は不要と話されました。必要なことは、まず介護保険は現金給付ではなく現物給付にかえ、事業者は認可制にし、営利目的のものの排除。ここが改善できなければ介護保険は廃止し社会保障制度にもとすべきであると話されました。



講演後、他のシンポジストの方やフロアからの発言もまとめ、芝田先生より、介護に専門性は不要、技術が必要。介護労働者には専門性が必要である。現場では専門性をもってやっているが、政府が認めない。介護労働者の専門性を認めると、認定もケア計画も不要になり「介護保険」が消滅する。介護労働者＝福祉労働者であり、介護の

みではなくトータルな生活支援が必要である。現在、医療従事者が頂点にあり、介護職は看護師に指導されてしか動けない。専門職と認められれば、スムーズに医療との連携ができていく。専門性を認めさせていくことが必要とまとめられました。

2日目は第4分科会「あるべき介護と介護報酬の問題点」に参加。各地から、介護報酬の出来高払いはおかしい、介護職の質が落ちてきている。出来高になつたことで、研修も行けなく

当面の日程

- 7月11日(日) 参議院選挙
- 7月14日(水) 人事院要請行動
- 7月18日(日)～19(祝) 組合学校
- 8月 3日(火) スト権管理委員会
- 8月13日(金)～15日(日)
夏季事務所閉鎖期間となります

9月5日(日)は 全国福祉保育労働組合東海地方本部 第24回定期大会です

8月の上旬には、各分会に議案書を発送します。各職場、夏季休暇体制に入っているかと思いますが、各分会でしっかりと討議し、定期大会に臨んで下さい。
※期日までに代議員登録や組合費納入をお願いします。

なつた。若者が多く余裕が無くなつてきている。特養に入るのは東大の入試並みに難しい。などの厳しい現状が話され、今の介護保険制度の矛盾が浮き彫りにされていきました。(Y・A)

【編集後記】

新年度が始まって3ヶ月が過ぎた。人間関係が新しくなったり、環境や役割や体制が変わったり。慣れてきたかのようにみえて、カラダには疲れがたまってきた。疲れてしまう。甘いものを欲してしまふ。最近癒しグッズやリラックスマグネットばかり買ってしまう。私に全然なついていない飼犬に

癒されようと実家によく帰つてしまふ。そして人に優しくできなくなつてきた。もともと優しくないけど、特に。私のまわりの人たちがごめんさい。
さて本日参議院議員選挙のお知らせが届いていました。7月11日、投票には行きたいと思つています。

(Ns)